

2009年3月期 決算説明会

- 2009年3月期 業績の概況
- 2009年度の重点取組み項目

2009年5月14日

株式会社キョーリン

代表取締役社長 古城 格



2009年3月期 決算概観(連結)

2009年3月期 連結業績(実績)

【売上】 一時金収入が大幅に減少したものの、国内新医薬品における主要製品の好調な推移、日清キョーリン製薬(株)の吸収合併効果、後発医薬品の伸長により、売上高は前年同期比98億円増の909億円(前年比12.1%増)となりました。

【利益】 日清キョーリン製薬(株)の統合等により販売費及び一般管理費は増加しましたが、売上拡大に伴う売上総利益の増加により営業利益は前年同期比27億円増の90億円(前年比43.2%増)となりました。当期純利益は特別損失として46億円を計上した結果、20億円(前年比7.0%減)となりました。

2010年3月期 連結業績(予想)

【売上】 国内新医薬品における主要製品の売上拡大及び後発医薬品の売上増加により、売上高は964億円(前年比6.1%増)と伸長する見込みです。

【利益】 販売費及び一般管理費は日清キョーリン製薬(株)の統合等により増加しますが、売上増と売上高原価率の低減により、営業利益115億円(前年比28.5%増)、当期純利益73億円(前年比258.4%増)を見込みます。

単位: (百万円)	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	前年比
売上高	74,054	77,093	81,070	90,889	12.1%
営業利益	8,989	8,413	6,251	8,952	43.2%
経常利益	9,465	8,655	6,643	9,208	38.6%
当期純利益	5,228	4,842	2,189	2,037	▲7.0%
EPS	69.74円	64.97円	29.26円	27.24円	▲6.9%
総資産	121,044	124,039	122,398	124,552	1.8%
純資産	94,752	98,178	97,184	96,501	▲0.7%

10年3月期 (予想)	前年比
96,400	6.1%
11,500	28.5%
12,300	33.6%
7,300	258.4%
97.64円	258.4%
—	—
—	—

* 06年3月期業績は杏林製薬(株)の連結数値、07年3月期以降の業績及び10年3月期予想は(株)キョーリンの連結数値

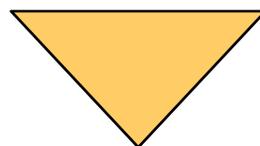
- 新薬事業**
- ・ガチフロ錠を販売中止したが、売上は順調に推移
 - ・将来の成長を支えるパイプラインの強化が課題

- 周辺事業**
- ・キョーリン リメディオ、ドクタープログラムは下期に黒字化を達成
 - ・ビストナーファンド及び(株)ビストナーは所期の目的を達成したと判断し解散を決議

09年度の位置付け

中期経営計画「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成に挑戦

ROE 7%



09年度の取組み

●新薬事業の強化

- ・選択と集中による競争力のある国内営業展開
- ・研究開発パイプラインの充実

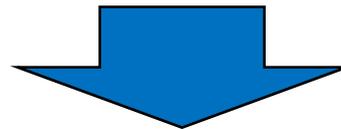
●日清キョーリン製薬との統合効果を最大限発揮

●キョーリン リメディオ、ドクタープログラムの育成、強化

新薬事業の強化 (1) 選択と集中による競争力のある国内営業展開

FC戦略の推進

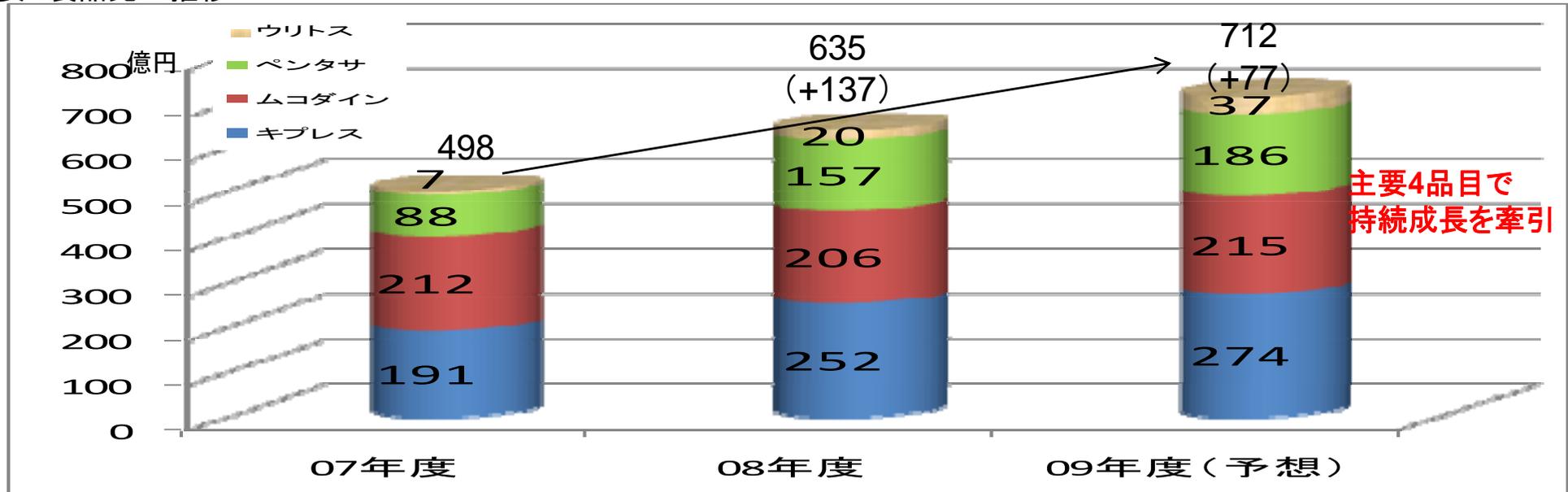
呼吸器内科、耳鼻科、泌尿器科の専門医を中心に約67,000名の医師を定期訪問



卸店政策

重点品目へ集中し増加率10%以上を図り、国内新医薬品売上高の持続成長を目指す

主要4製品売上推移



国内新医薬品売上高

(09.3 実績)
719億円

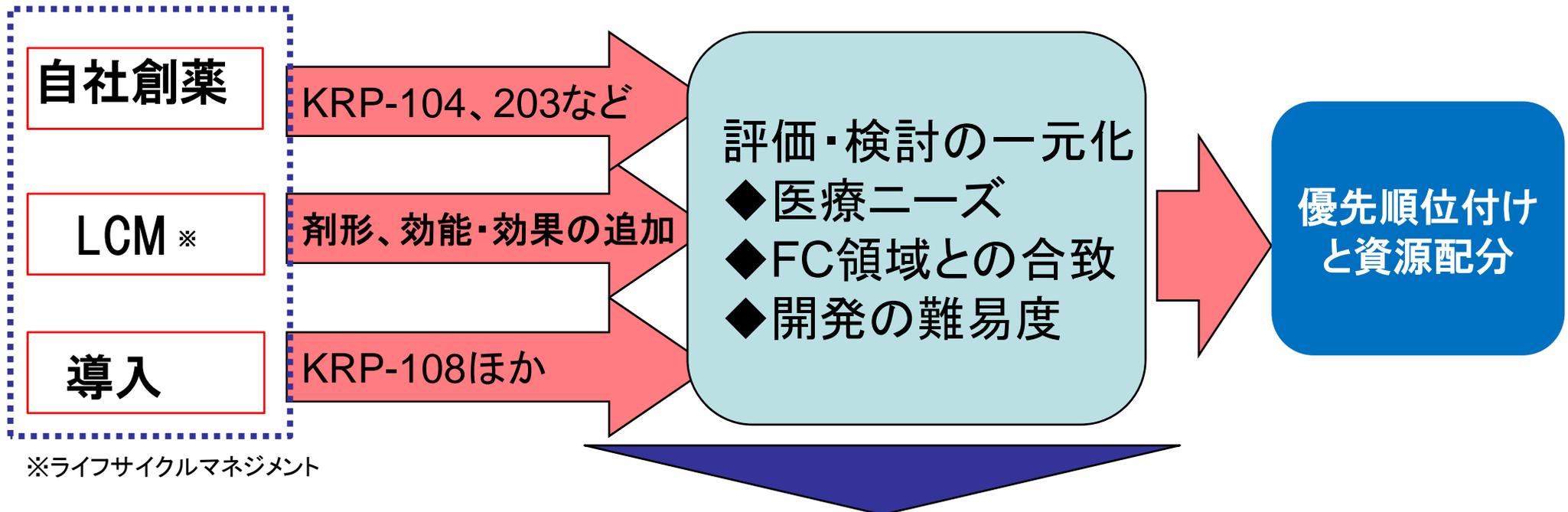


(10.3 予想)
761億円

新薬事業の強化 (2)パイプラインの充実

マーケットインの考えに基づいたモノづくり、導入の更なる強化

新薬/LCM/導入品を同一テーブルで検討し、優先順位付けと資源配分を行う



短・中・長期のパイプラインの充実を図る

09年度は統合効果が年間フル寄与

具体的な統合効果

営業力の強化

キョーリン製薬

- ・MR増員による定期訪問医師との関係強化
- ・重点商品のコール数UPによる売上増

キョーリン リメディオ

- ・承継先への新規納入による後発医薬品売上増
(口座数 約10,000軒)

原価率の低減

ペンタサ自社製造に伴う原価率低減



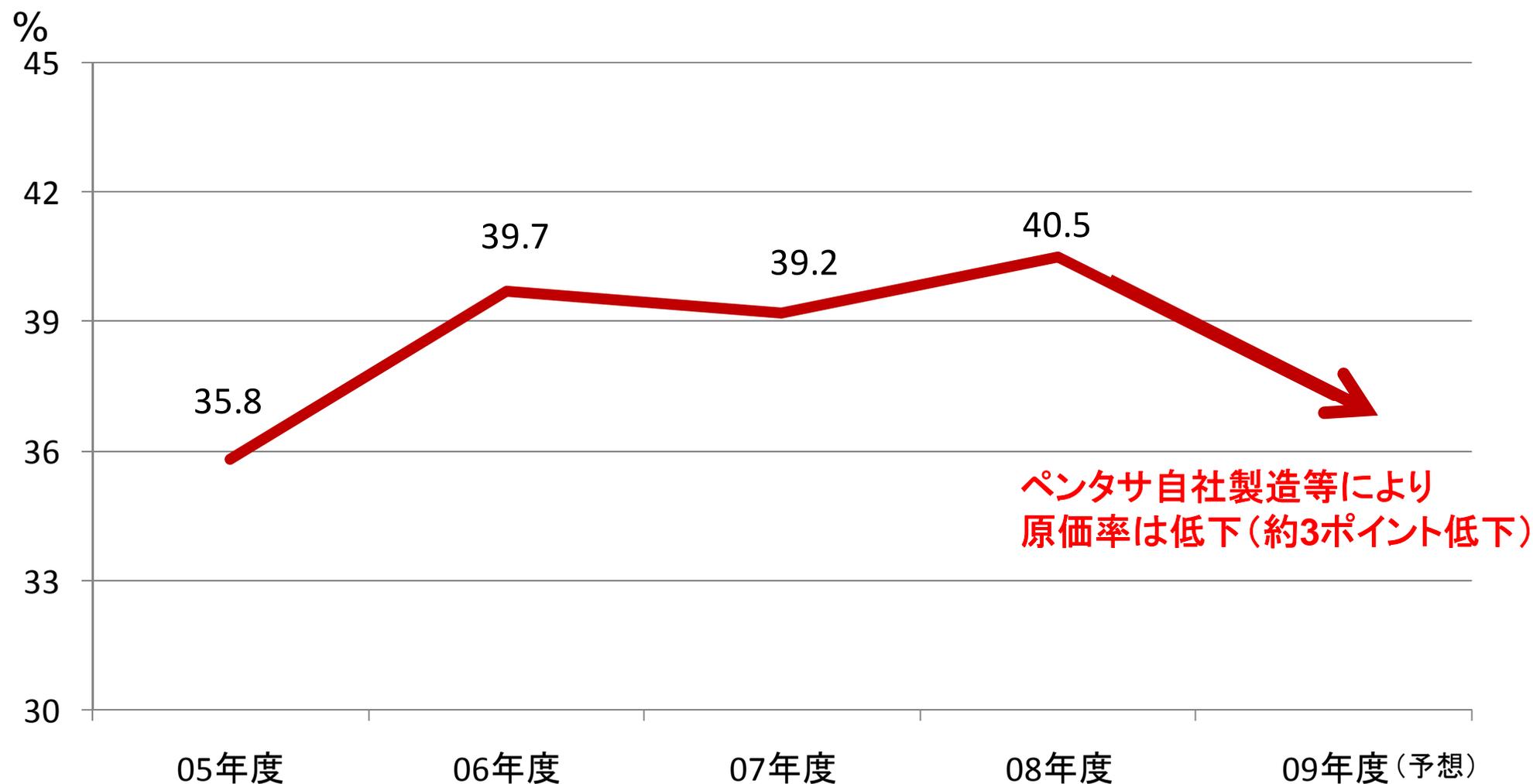
効率経営の 更なる推進

- ・R&D費の効率化

- ・人員の効率活用 (約300名 ⇒ 約180名)

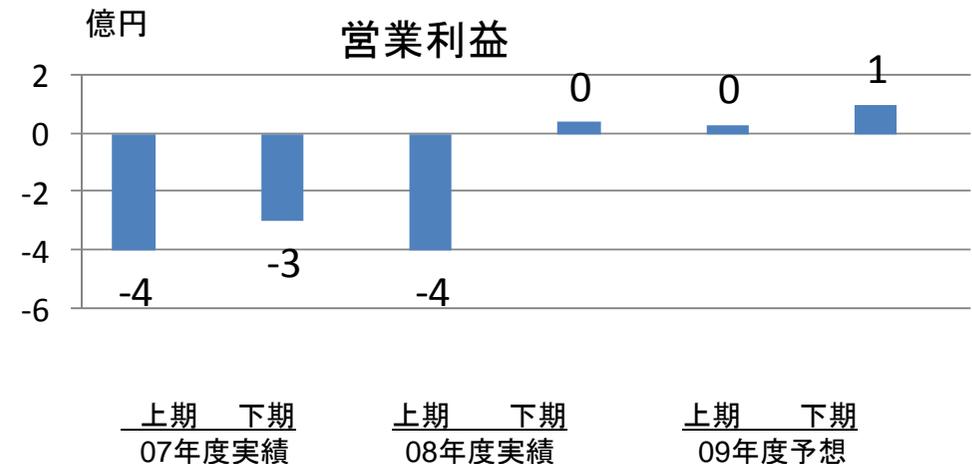
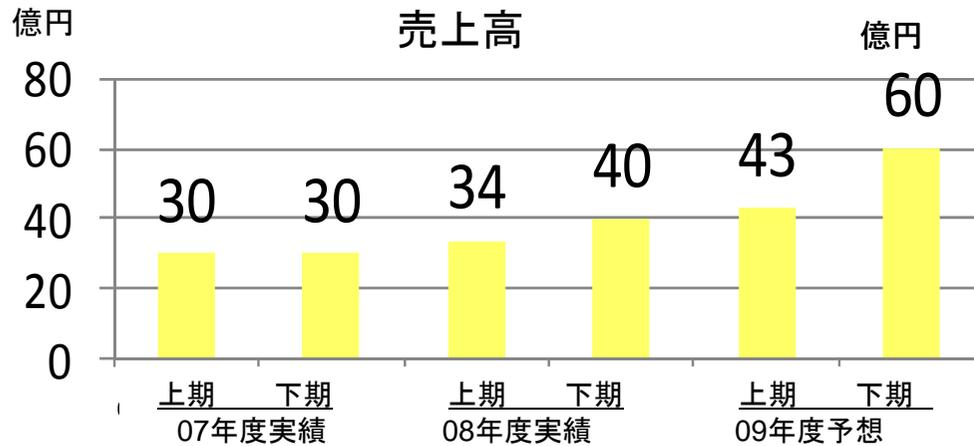
※約300名のうち約180名がキョーリン製薬に異動(120名の人員減)
年間約10億円のコスト削減

売上高原価率(連結)の推移



周辺事業

キョーリン リメディオの地力養成



※決算期を1月31日から3月31日へ変更予定(2010年3月期は、14ヶ月が対象期間)

キョーリン リメディオ 08年度の状況

【売上：14億円増(60億円⇒74億円)】

- ・既存の主要製品、追補品による売上拡大
- ・日清キョーリン製薬からの承継品による売上増加

【営業利益：▲7億円⇒▲4億円】

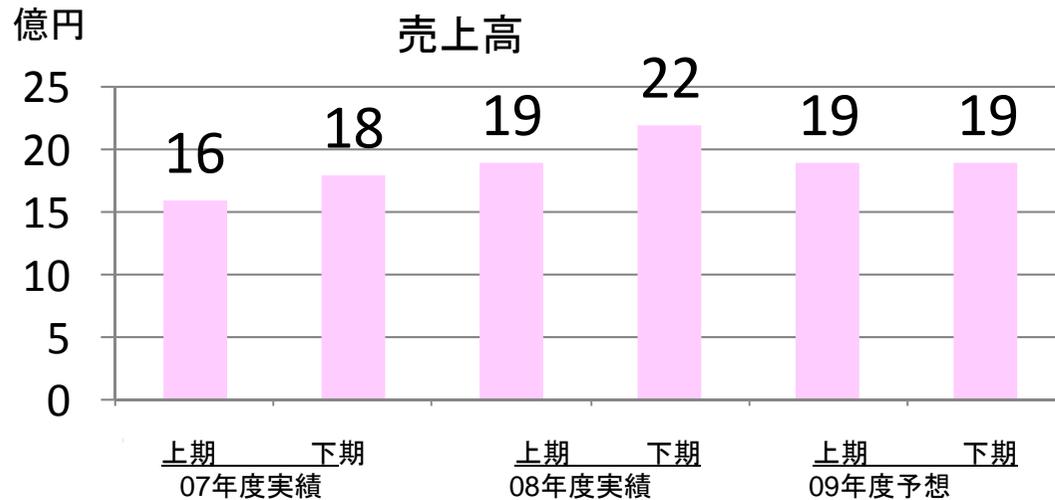
- ・通期では赤字幅を縮小
- (下期は原価率低減に取組み黒字化を達成)

09年度は年度での黒字化達成を目指す

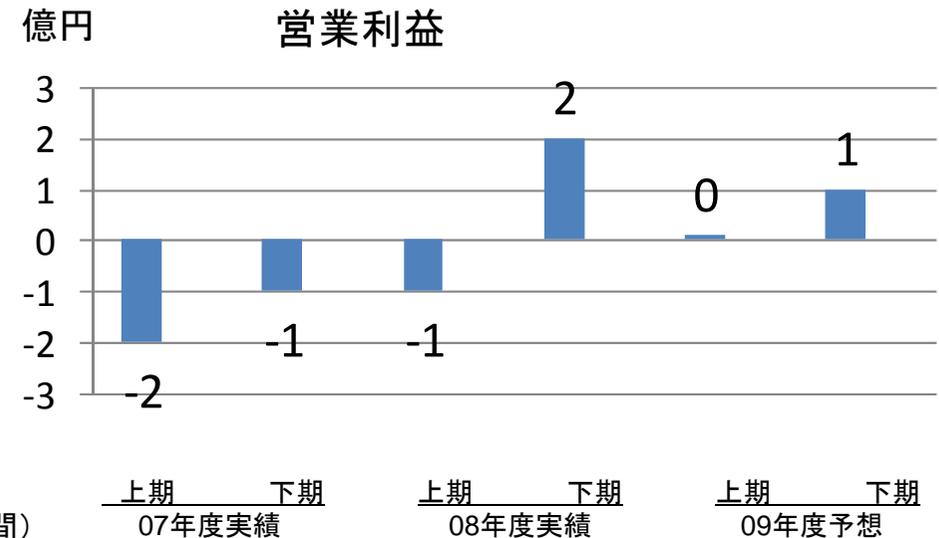
- ・販売価格の適正化
- ・売上原価率の低減
- ・新たな追補品の上市

周辺事業

ドクタープログラムの地力養成



※決算期を1月31日から3月31日へ変更(2009年3月期は、14ヶ月が対象期間)



ドクタープログラム 08年度の状況

【売上:7億円増(34億円⇒41億円)】

- ・決算期を1月31日から3月31日に変更し、3億円増 (対象期間14ヵ月)

【営業利益:▲3億円⇒1億円】

- ・広告費、販促費の効率的投入と厳格な予算管理によりコストダウンを実現し、黒字化を達成

09年度は経費コントロールを
着実に実施し、利益を最優先
に事業を展開する

- ・販促戦略の転換
- ・新製品の投入、既存製品のリニューアル実施
- ・新規販路の定着、開拓

周辺事業

ビストナー壱号投資事業有限責任組合及び(株)ビストナーの解散

●ビストナー壱号投資事業有限責任組合(ビストナーファンド)

2000年9月19日	ビストナーファンド設立
2009年3月19日	同ファンド解散を決議
2009年6月	清算終了予定

・ビストナーファンドは未公開企業への投資を通じて、(株)キョーリンの事業領域の拡充等に繋げることを目的に創設しましたが、所期の目的を達成したと判断し解散を決議しました。

◆投資案件:27件、投資額:28億円

・この方針に従い、(株)ビストナーも同ファンド清算の終了後に解散することにいたしました。

※ビストナーファンド解散に伴う特別損失	7億円
・投資有価証券評価損	4億円
・投資有価証券売却損	3億円

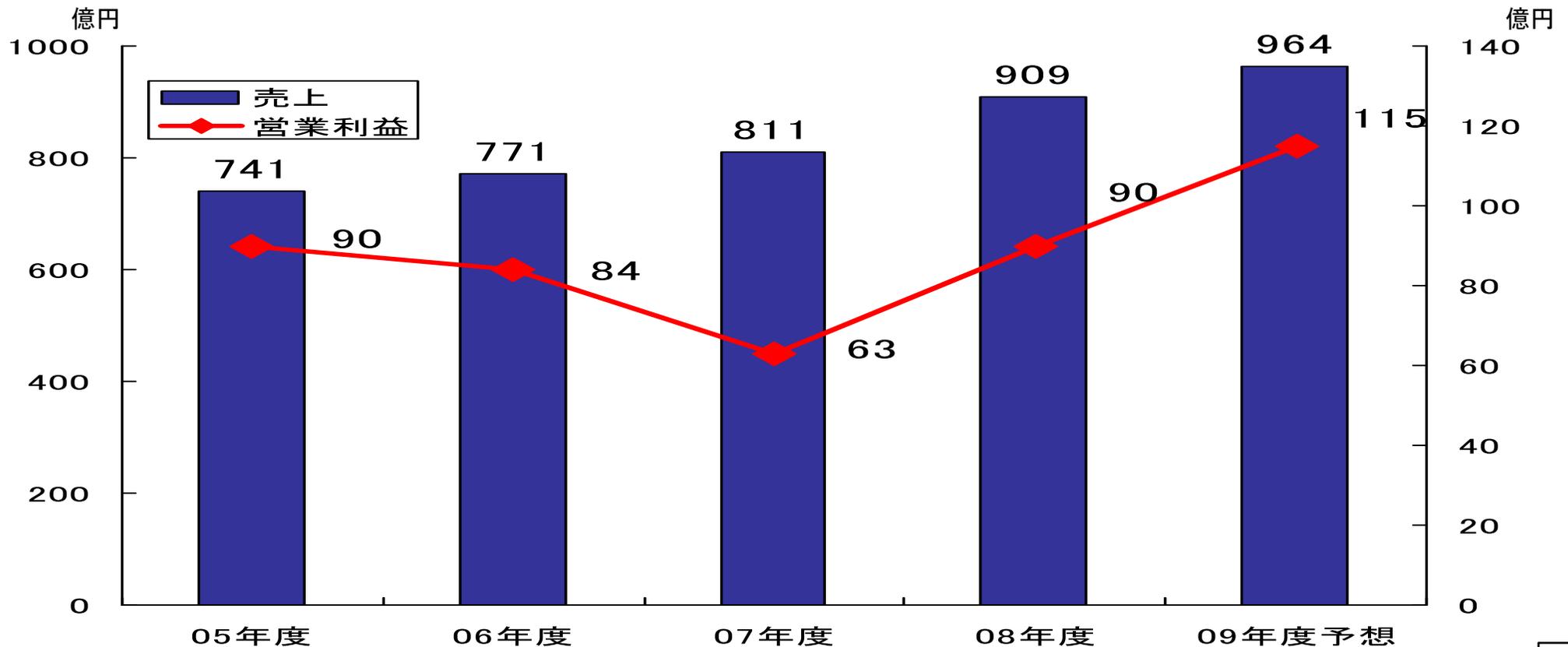
主な成果

製薬技術を応用することで高機能性を目指した化粧品を開発・販売するドクタープログラム社を発掘し、2005年6月に完全子会社化。同社09年3月期の売上高は41億円となりました。

「キョーリンMIC-'09計画」の目標達成へ

・新薬事業の強化、日清キョーリン製薬との統合効果、周辺事業の黒字化により、営業利益115億円(ROE7%以上)を目指します

・配当性向は50%を目処に実行します(年間配当45円を予定)



開発品一覧①(09年5月13日現在)

Ph II ~ 申請中

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
承認 (08年12月)		ペンタサ錠250 錠500	潰瘍性大腸炎・ クローン病 治療剤	フェリング 社	潰瘍性大腸炎活動期に対する新たな緩解導入療法 (1日4,000mgを2回に分けて投与)	用法・用量の追加
	(ガルデルマ社 発売中)	塩酸アモロルフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II a終了 (08年8月) ※国内Ph II b開始 (09年3月)
Ph II (08年8月)	(米国:アボット 申請中 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

開発品一覧②(09年5月13日現在)

POCプロジェクト(前臨床～Ph I)

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR α アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR α 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	
※前臨床		KRP-109	急性肺障害	自社	肺移行性の高い好中球エラスターゼ阻害剤。	

開発品一覧③(09年5月13日現在)

導出品の状況

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

2009年3月期 決算説明会

- 2009年3月期の業績と2010年3月期の見込み

2009年5月14日

株式会社キョーリン
取締役常務執行役員 穂川 稔



2009年3月期 業績の状況(連結)

前年比



単位:億円

	08年 3月期 (実績)	09年 3月期 (実績)	対前年 増減
売上高 合計	811	909	+98
◆新医薬品	676	757	+81
国内	633	719	+86
海外	43	38	▲5
◆後発医薬品	51	63	+12
◆ヘルスケア	73	77	+4
◆その他	11	12	+1
営業利益	63	90	+27
経常利益	66	92	+26
当期純利益	22	20	▲2

■売上高	909億円			対前年 (+98)
●国内新医薬品	719億円			(+86)
		08.3実績	09.3実績	
・キプレス		191	⇒ 252	(+61)
・ムコダイン		212	⇒ 206	(▲6)
・ペンタサ		88	⇒ 157	(+69)
・ウリス		7	⇒ 20	(+13)
・ガチフロ		23	⇒ 7	(▲16)
*一時金収入の減少				
●海外新医薬品	38億円			(▲5)
・ガチフロキサシン		30	⇒ 25	(▲5)
*ザイマー\$100MM⇒\$101MM ロイヤルティ収入の減少(為替変動の影響等)				
●後発医薬品	63億円			(+12)
*日清キョーリン製薬からの承継品・追補品・重点商品等による売上増加				
●ヘルスケア	77億円			(+4)
・ミルトン		19	⇒ 18	(▲1)
・ドクタープログラム社		34	⇒ 41	(+7)
*決算期の変更:連結対象期間14ヶ月				
●その他	12億円			(+1)
◆原価率:前年比1.3ポイント上昇				(39.2%⇒40.5%)
上昇要因:薬価改定(杏林製薬約4%)の影響、一時金収入の減少				
低下要因:製品販売構成の変化				
◆研究開発費率:前年比1.8ポイント低下				(13.4%⇒11.6%)
*108億円⇒105億円(約3億円減少)				
◆販管費率(除R&D費):前年比1.7ポイント低下				(39.8%⇒38.1%)
*322億円⇒346億円(約24億円増加)				
日清キョーリン製薬の統合				
■営業利益	90億円			(+27)
◆営業利益率は9.8%と2.1ポイント上昇				
■当期純利益	20億円			(▲2)
*特別損失:約46億円				
(ガチフロ錠販売中止約26億円、投資有価証券評価損約8億円、減損損失約4億円、投資有価証券売却損約3億円等)				
■配当	13円00銭			

2009年3月期 業績の状況(連結)

対予想



単位:億円

	09年 3月期 (予想)	09年 3月期 (実績)	対予想 増減
売上高 合計	886	909	+23
◆新医薬品	731	757	+26
国内	699	719	+20
海外	32	38	+6
◆後発医薬品	63	63	±0
◆ヘルスケア	80	77	▲3
◆その他	12	12	±0
営業利益	67	90	+23
経常利益	70	92	+22
当期純利益	16	20	+4

* 予想数値は2008年10月29日に公表した数値

■売上高	909億円			対予想 (+23)
●国内新医薬品	719億円			(+20)
・キプレス	234	⇒	252	(+18)
・ムコダイン	207	⇒	206	(▲1)
・ペンタサ	155	⇒	157	(+2)
・ウリス	19	⇒	20	(+1)
●海外新医薬品	38億円			(+6)
・ガチフロキサシン	26	⇒	25	(▲1)
・その他(ノルフロキサシン含む)	6	⇒	13	(+7)
* ActivX社 関係先売上				
●後発医薬品	63億円			(±0)
●ヘルスケア	77億円			(▲3)
・ミルトン	20	⇒	18	(▲2)
・ドクタープログラム社	40	⇒	41	(+1)
* 決算期の変更:連結対象期間14ヶ月				
●その他	12億円			(±0)
◆原価率:40.5%	(概ね予想通り)			
◆研究開発費率:11.6%	* 110億円⇒105億円(プロジェクトの期ずれなど)			
◆販管費率(除R&D費):38.1%	(予想に対し約1.5ポイント低下)			
* 経費圧縮に取組み販管費は予想を下回る				
■営業利益	90億円			(+23)
◆営業利益率は9.8%	と予想に対し2.2ポイント上昇			
■当期純利益	20億円			(+4)
* 特別損失:約32億円⇒約46億円				
■配当	13円00銭			
* 業績と配当性向を勘案し、年間配当を11円00銭を13円00銭へ修正				

2010年3月期 業績の予想(連結)

単位:億円

	09年 3月期 (実績)	10年 3月期 (予想)	対前年 増減
売上高 合計	909	964	+55
◆新医薬品	757	788	+31
国内	719	761	+42
海外	38	27	▲11
◆後発医薬品	63	87	+24
◆ヘルスケア	77	78	+1
◆その他	12	11	▲1
営業利益	90	115	+25
経常利益	92	123	+31
当期純利益	20	73	+53

■売上高	964億円			対前年 (+55)
●国内新医薬品	761億円			(+42)
		09.3実績	10.3予想	
・キプレス		252	⇒ 274	(+22)
・ムコダイン		206	⇒ 215	(+9)
・ペンタサ		157	⇒ 186	(+29)
・ウリトス		20	⇒ 37	(+17)
・ガチフロ		7	⇒ 0	(▲7)
*アレロック コ・プロモーション終了など				
●海外新医薬品	27億円			(▲11)
・ガチフロキサシン		25	⇒ 23	(▲2)
・その他(ノルフロキサシン含む)		13	⇒ 4	(▲9)
*ActivX社 関係先売上減				
●後発医薬品	87億円			(+24)
*日清キョーリン製薬からの承継品の年間フル寄与 追補品・重点商品による売上増加 *決算期の変更(キョーリン リメディオ):連結対象期間14ヶ月				
●ヘルスケア	78億円			(+1)
・ミルトン		18	⇒ 20	(+2)
・ドクタープログラム社		41	⇒ 38	(▲3)
●その他	11億円			(▲1)
◆原価率	約3ポイント低下			
*ペンタサ自社製造等により原価率は約3%低下を予想				
◆研究開発費率	…11.6%⇒12.0%:0.4ポイント上昇			
研究開発費:105億円⇒116億円(11億円増) *日清キョーリン製薬の統合により増加				
◆販管費率(除くR&D費)	ほぼ横ばい			
*日清キョーリン製薬の統合に伴い販管費(除くR&D費)は増加するものの、 売上増加により販管費率(除くR&D費)はほぼ横ばいを予想				
■営業利益	115億円			(+25)
◆営業利益率は11.9%と2.1ポイント上昇				
■当期純利益	73億円			(+53)
■配当	45円00銭 (予定)			

参考資料

主な子会社の業績と予想

単位:億円

杏林製薬	2008年3月期	2009年3月期	2010年3月期(予想)
売上高	705	780	817
営業利益	69	85	114
当期純利益	38	40	77

キョーリンリメディオ	2008年1月期	2009年1月期	2010年3月期(予想) ^{※2}
売上高	60	74	103
営業利益	▲7	▲4	1
当期純利益	▲14	▲6	1

ドクタープログラム	2008年1月期	2009年3月期 ^{※1}	2010年3月期(予想)
売上高	34	41	38
営業利益	▲3	1	1
当期純利益	▲4	1	1

※1:ドクタープログラムの2009年3月期業績は決算期変更に伴い14ヶ月分を計上

※2:キョーリンリメディオの2010年3月期予想は決算期変更を予定しており、14ヶ月分を計上した業績を予想

ロイコトリエン拮抗剤 キプレス

1. キプレス実績・予想

08年度実績	09年度予想
252億円	274億円

2. 09年度の取り組み

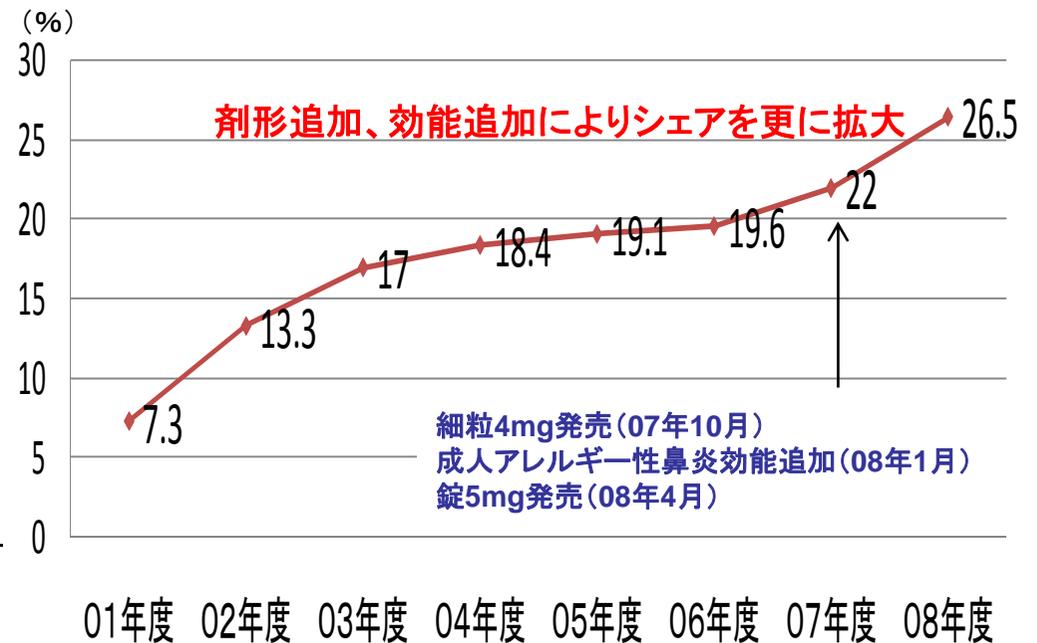
- ・アレルギー性鼻炎のベース薬としての認知向上、処方拡大
- ・乳幼児から高齢者まで全年齢層で、喘息治療薬として有効性、使い易さを訴求

3. ロイコトリエン拮抗剤市場推移

(億円:薬価)



4. キプレスシェア



キプレスの特長

- ①高い有効性と安全性、②服薬コンプライアンス(1日1回)、③豊富なエビデンスデータ

潰瘍性大腸炎・クローン病治療薬 ペンタサ

1. ペンタサ実績・予想

08年度実績 157億円
09年度予想 186億円

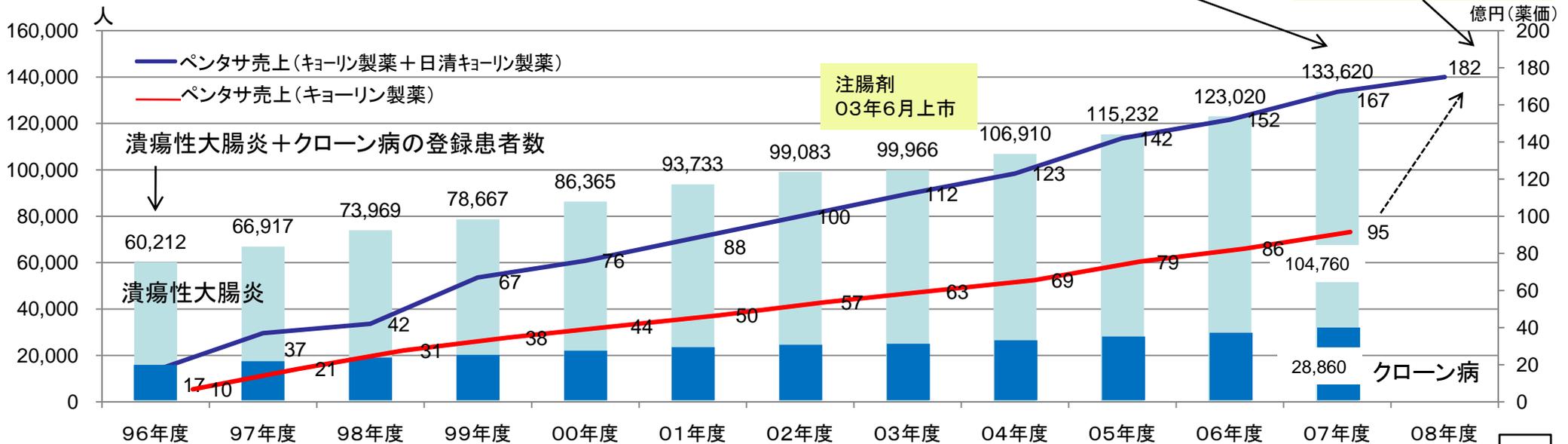
2. 09年度の取り組み

最新情報提供の継続による
潰瘍性大腸炎でのペンタサ錠・注腸の処方定着・拡大

- ★ 錠500の普及
- ★ 潰瘍性大腸炎活動期の4g処方の浸透

炎症性腸疾患治療剤市場は約225億円
ペンタサシェア 80.6%

3. 炎症性腸疾患患者数とペンタサ売上推移



過活動膀胱治療剤 ウリトス

1. ウリトス実績・予想

08年度実績
20億円

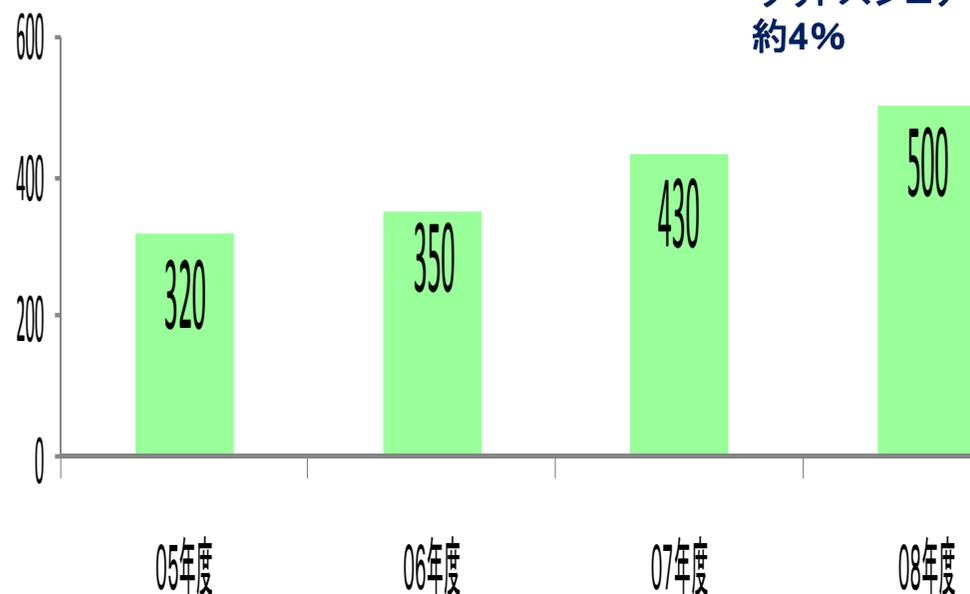
09年度予想
37億円

2. 09年度の取り組み

・患者さんの流れ(病診連携等)をふまえた疾患啓発活動等の実施

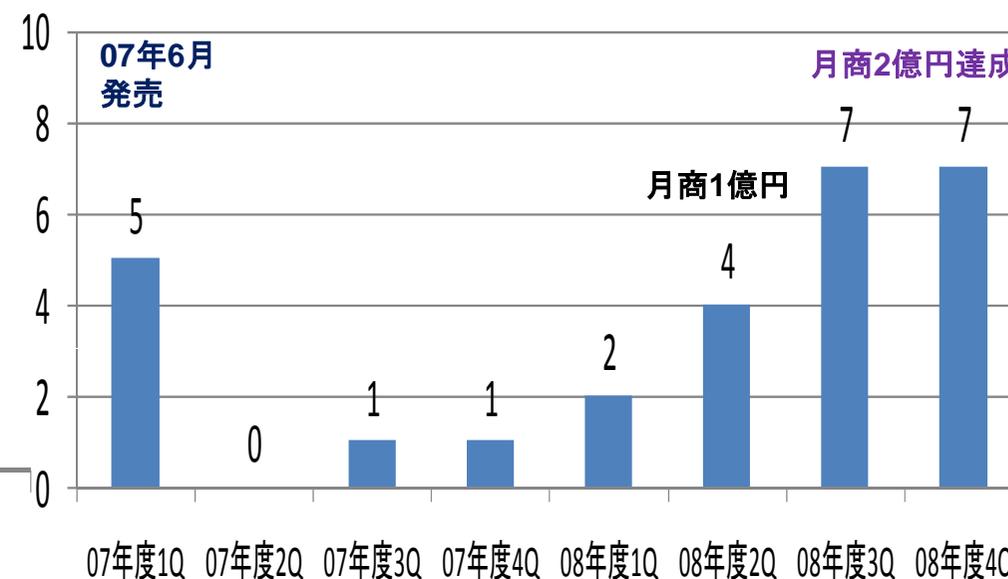
3. 過活動膀胱治療剤市場推移

億円(薬価)



4. ウリトス実績推移

億円



※08年7月
投薬期間制限解除

ウリトスの特長

①副作用の軽減(口内乾燥、便秘など)、②用法・用量(1日2回)、③夜間頻尿への効果

気道粘液調整・粘膜正常化剤 ムコダイン

1. ムコダイン実績・予想

08年度実績
206億円

09年度予想
215億円

2. 09年度の取り組み

* 慢性呼吸器疾患のベース薬として育成していく

FC戦略

LCMの推進

特に呼吸器内科へ注力

COPD増悪に対するアプローチ
慢性呼吸器疾患での処方獲得

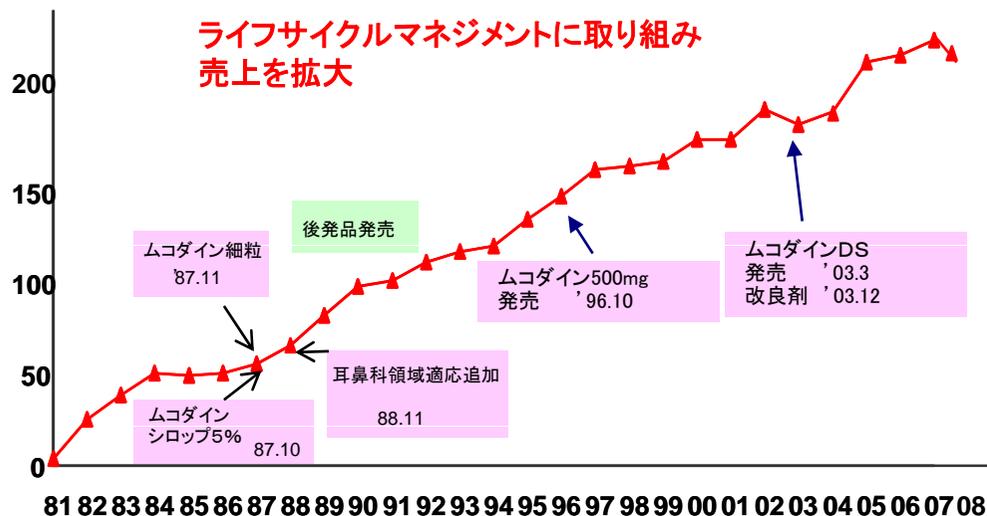
※PEACE Study

- ◆COPD増悪回数の有意な減少
- QOLの改善
- 感冒の罹患回数の有意な減少
- THE LANCETへ掲載(08年6月)

【トピックス】 ・PEACE Studyの論文がLANCETの「Paper of the year 2008」に選出

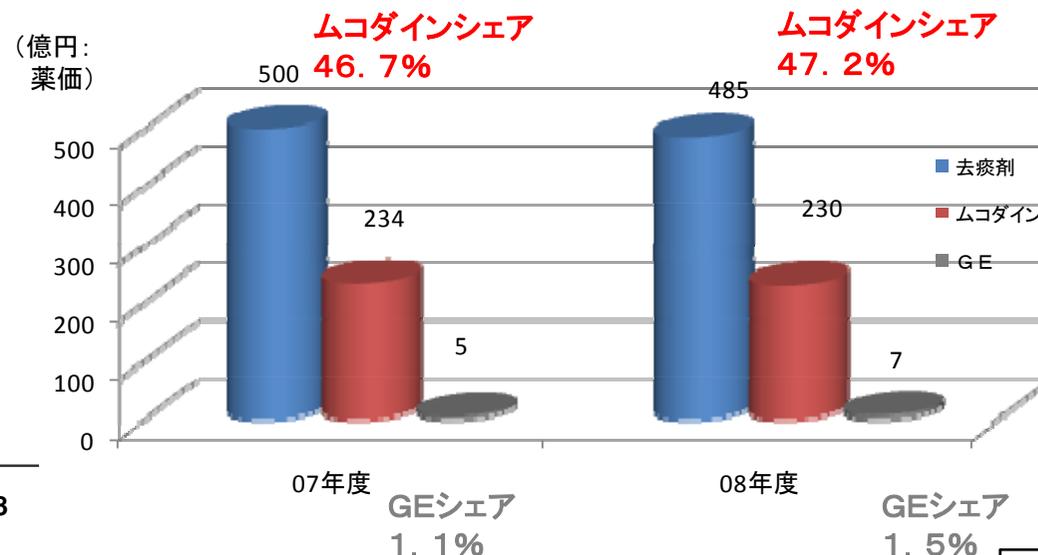
3. ムコダイン売上推移

(億円:薬価)



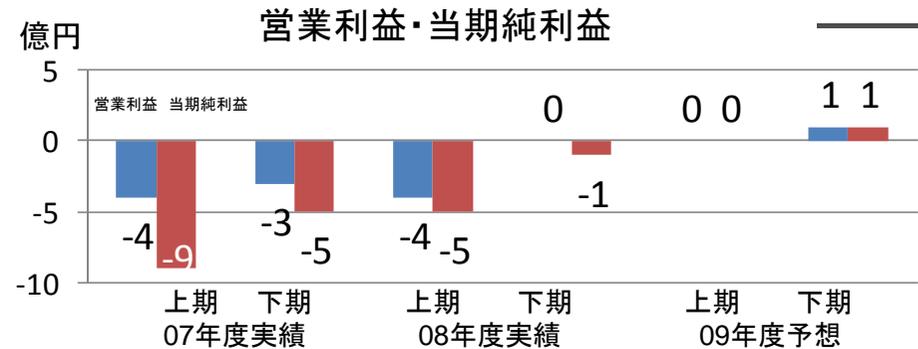
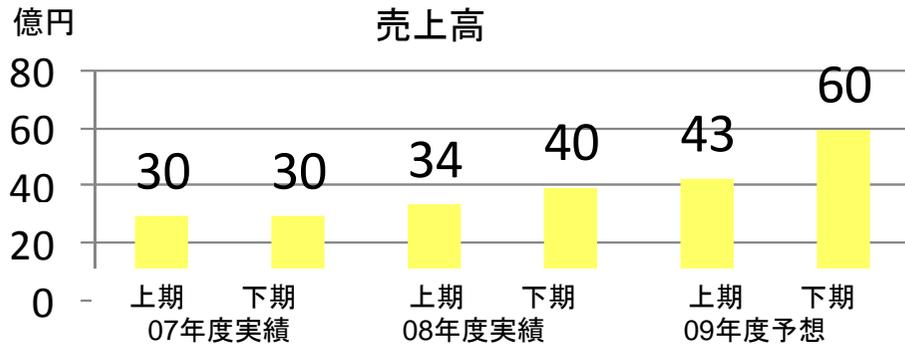
4. 去痰剤市場推移

(億円:薬価)



周辺事業

(1) キョーリン リメディオ 2008年度の状況と2009年度取組み



※決算期を1月31日から3月31日へ変更予定(2010年3月期は、14ヶ月が対象期間)

概況(前年との比較)

課題への対応

- 売上高
 - ・日清キョーリン製薬からの承継品による増加
 - ・既存の主要製品及び追補品による増加
- 営業利益
 - ・薬価改定及び価格競争激化による原価率は上昇するも、下期は原価率低減に取組み黒字化

- ◆年度での黒字化達成を目指す
 - ・販売価格の適正化
 - ・売上原価率の低減
 - ・新たな追補品の売上増

2008年度(取組み)

2009年度(対策)

営業力の強化

販売体制の強化
 ・口座軒数 約10,000軒増加/調剤薬局拡大
 ・MR数 76名
 ・広域卸:東邦薬品・アルフレッサ推奨メーカー入り

調剤薬局の販売強化:取引軒数の1500軒拡大を目指す
 卸店販売ルートの上増増加・・・卸店:販社(30:70⇒40:60)
 日清キョーリン製薬承継先への新規納入による売上増
 利益率の高い製品の売上拡大(08-09年度追補品、パテルテープ等)

原価率の低減

キョーリン製薬の主要製品の受託生産を開始
 追補品、主要製品売上増による工場稼働率UP

工場稼働率UPによる原価の低減
 ・製造ラインの整備(不採算品の整理など)
 ・更なる受託製造の拡大 ・安定供給とコストダウン

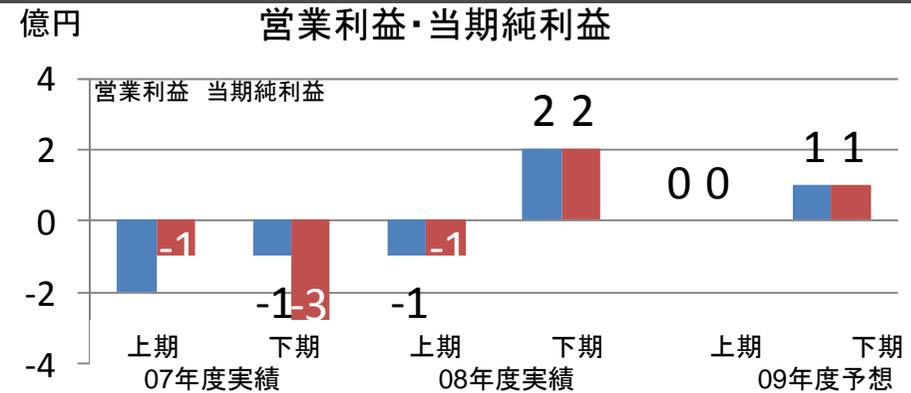
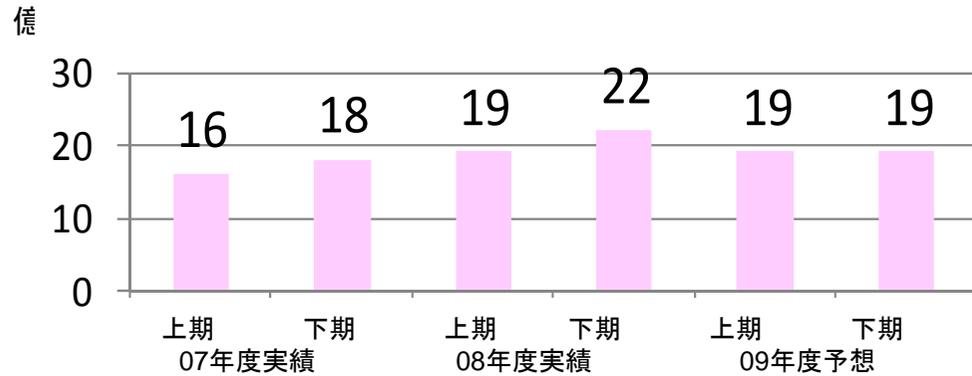
品揃え

キョーリン製薬(3品目)、日清キョーリン製薬(13品目)
 の販売を移管
 追補品7品目発売

追補品の拡大(10品目以上発売予定)
 杏林製薬との協働
 他社との共同開発の推進

周辺事業

(2)ドクタープログラム 2008年度の状況と2009年度取組み



※決算期を1月31日から3月31日へ変更(2009年3月期は、14ヶ月が対象期間)

2008年度の状況

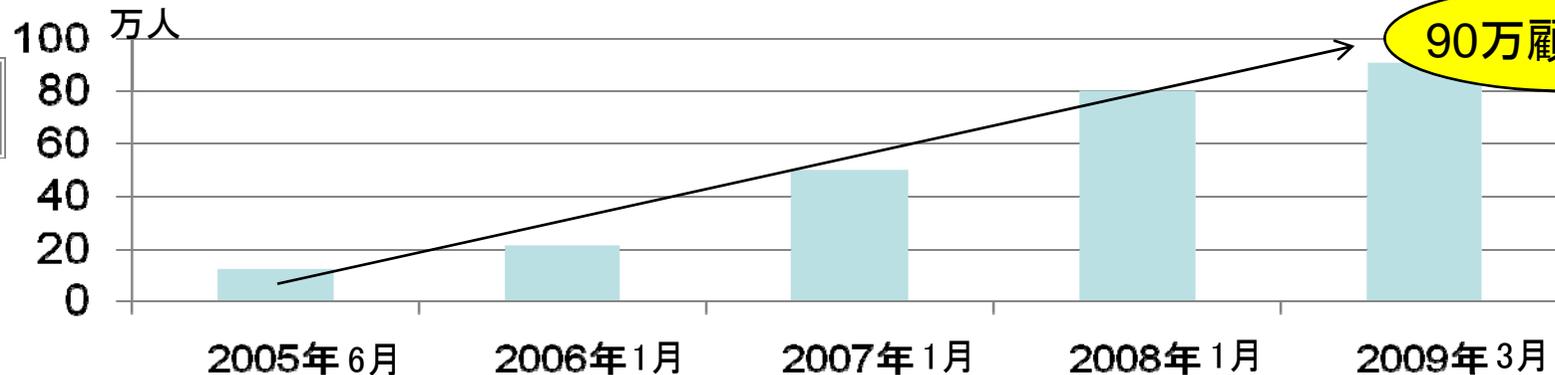
- ◆新規販売チャネルの売上が寄与(TVショッピング、QVC)
- ◆海外展開を開始
- ◆広告費・販促費予算の効率的かつ効果的使用によりコストダウン

今後の取組み

- ◆新規顧客獲得のための効率的な広告展開の実施(新規媒体:TVCMなど)
- ◆新製品(U50)の拡販展開、既存製品リニューアルの実施
- ◆技術・効果に基づく新製品の開発と新発売



顧客名簿数



90万顧客以上

2009年3月期 決算概要

財務諸表の概況

損益計算書の概要：連結①

(単位:百万円)

	08年3月期		09年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	81,070	100.0%	90,889	100.0%	12.1%	9,819
新医薬品	67,631	83.4%	75,690	83.3%	11.9%	8,059
国内	63,296	78.1%	71,935	79.1%	13.6%	8,638
海外	4,334	5.3%	3,755	4.1%	▲13.4%	▲579
後発医薬品	5,088	6.3%	6,264	6.9%	23.1%	1,176
ヘルスケア	7,296	9.0%	7,725	8.5%	5.9%	429
その他	1,054	1.3%	1,208	1.3%	14.6%	153

<適応範囲及び持分法の適用について>

連結子会社10社：杏林製薬(株) (株)杏文堂
 (株)ビストナー キョーリンリメディオ(株)
 ドクタープログラム(株) Kyorin USA, Inc.
 Kyorin Europe GmbH ActivX Biosciences, Inc.
 ビストナー番号投資事業有限責任組合
 (株)日本メディカルアドバンス
 持分法適用会社1社：日本理化学薬品(株)

<当期のポイント>

対前年

■売上高 90,889百万円 (+9,819百万円)

●国内新医薬品 71,935百万円 (+8,638百万円)

08.3実績 09.3実績(億円)

・キプレス 191 → 252 (+61)
 ・ムコダイン 212 → 206 (▲6)
 ・ペンタサ 88 → 157 (+69)
 ・ウリトス 7 → 20 (+13)
 ・ガチフロ 23 → 7 (▲16)

*一時金収入の減少

●海外新医薬品 3,755百万円 (▲579百万円)

・ガチフロキサシン 30 → 25 (▲5)

*ザイマー \$100MM⇒\$101MM ロイヤルティ収入の減少
 (為替変動の影響等)

●後発医薬品 6,264百万円 (+1,176百万円)

*日清キョーリン製薬からの承継品、追補品・重点商品等による売上増加

●ヘルスケア 7,725百万円 (+429百万円)

・ミルトン 19 → 18 (▲1)

・ドクタープログラム社 34 → 41 (+7)

*決算期の変更：連結対象期間14ヶ月

●その他 1,208百万円 (+153百万円)

損益計算書の概要：連結一②

(単位：百万円)

	08年3月期		09年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	81,070	100.0%	90,889	100.0%	12.1%	9,819
売上原価	31,757	39.2%	36,791	40.5%	15.9%	5,033
売上総利益	49,312	60.8%	54,098	59.5%	9.7%	4,785
販売費及び 一般管理費 (うち研究費)	43,061 (10,826)	53.1% 13.4%	45,146 (10,531)	49.7% 11.6%	4.8% (▲2.7%)	2,084 (▲294)
営業利益	6,251	7.7%	8,952	9.8%	43.2%	2,700
営業外収益	903	1.1%	807	0.9%	▲10.6%	▲96
営業外費用	510	0.6%	550	0.6%	7.9%	40
経常利益	6,643	8.2%	9,208	10.1%	38.6%	2,564
特別利益	43	0.0%	203	0.2%	364.5%	160
特別損失	1,068	1.3%	4,564	5.0%	327.3%	3,496
税金等調整前 当期純利益	5,619	6.9%	4,847	5.3%	▲13.7%	▲772
法人税・住民税 及び事業税	2,095	2.6%	2,727	3.0%	30.1%	631
法人税等調整額	1,333	1.6%	82	0.1%	▲93.8%	▲1,251
当期純利益	2,189	2.7%	2,037	2.2%	▲7.0%	▲152

<当期のポイント>

対前年

◆原価率：前年比1.3ポイント上昇（39.2%⇒40.5%）
上昇要因：薬価改定（杏林製薬約4%）の影響、一時金収入の減少
低下要因：製品販売構成の変化

◆研究開発費率：前年比1.8ポイント低下
*108億円⇒105億円（約3億円減少）（13.4%⇒11.6%）

◆販管費率（除R&D費）：前年比1.7ポイント低下
（39.8%⇒38.1%）
*322億円⇒346億円（約24億円増加）
日清キョーリン製薬の統合

■営業利益 90億円

◆営業利益率は9.8%と2.1ポイント上昇

■当期純利益 20億円

*特別損失：約46億円
（ガチフロ錠販売中止約26億円、投資有価証券評価損約8億円
減損損失約4億円、投資有価証券売却損約3億円等）

■配当 13円00銭

貸借対照表の概要: 連結

(単位: 百万円)

	08年3月期		09年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	66,016	53.9%	75,140	60.3%	9,124
現金および預金	10,647		12,223		
受取手形及び売掛金	28,995		35,615		
有価証券	2,209		3,500		
棚卸資産	19,770		18,187		
その他流動資産	4,392		5,613		
固定資産	56,382	46.1%	49,412	39.7%	▲6,970
有形固定資産	18,214		17,122		
無形固定資産	2,356		1,632		
投資その他	35,811		30,657		
資産合計	122,398	100.0%	124,552	100.0%	2,153
流動負債	19,201	15.7%	21,715	17.4%	2,513
支払手形及び買掛金	10,792		8,258		
その他流動負債	8,409		13,456		
固定負債	6,012	4.9%	6,336	5.1%	323
負債合計	25,214	20.6%	28,051	22.5%	2,837
株主資本	96,401	78.8%	97,513	78.3%	1,111
評価・換算差額等	782	0.6%	▲1,012	▲0.8%	▲1,794
純資産合計	97,184	79.4%	96,501	77.5%	▲683
負債及び純資産合計	122,398	100.0%	124,552	100.0%	2,153

<当期のポイント>

■ 流動資産: 9,124百万円増

- ・現金、預金の増加 (1,575百万円増)
- ・受取手形、売掛金の増加 (6,619百万円増)
- ・棚卸資産の減少 (1,582百万円減)

■ 固定資産: 6,970百万円減

- ・有形固定資産の減少 (1,092百万円減)
- ・投資その他の減少 (5,153百万円減)

■ 流動負債: 2,513百万円増

- ・支払手形及び買掛金の減少(2,534百万円減)
- ・その他流動負債の増加 (5,047百万円増)

■ 固定負債: 323百万円増

研究開発費・設備投資・減価償却費の状況<連結>

(単位:百万円)

	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期		10年3月期 (予想)
					実績	増減比	
研究開発費	12,698	10,107	8,609	10,826	10,531	▲2.7%	11,600
設備投資	6,172	4,605	2,954	1,952	1,612	▲17.4%	2,600
減価償却費	3,894	3,646	4,544	4,536	3,799	▲16.2%	3,000

<設備投資の状況(実績/予想)>

(実績)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

09年3月期実績

5億円

7億円

4億円

10年3月期予想

(予想)

工場設備

管理・販売設備

研究用設備

10億円

7億円

9億円

主要製品売上の状況



健康はキョーリンの願いです。

	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期		10年3月期 (予想)	
					実績	前 同 比		
国内新医薬品	キプレス (ロイコトリエン受容体拮抗剤)	118	134	150	191	252	31.9%	274
	ムコダイン (去痰剤)	190	199	204	212	206	▲2.5%	215
	ペンタサ (潰瘍性大腸炎・クローン病治療剤)	64	73	80	88	157	78.6%	186
	ケタス (気管支喘息・脳血管障害治療剤)	66	63	58	54	50	▲8.4%	50
	ウリトス(自社販売) (過活動膀胱治療剤)	—	—	—	7	20	201.5%	37
	アプレース (抗潰瘍剤)	26	24	20	18	15	▲14.5%	15
	ロカルトロール (骨粗鬆症治療剤)	24	22	19	18	15	▲13.4%	14
	バクシダール (合成抗菌剤)	7	6	6	5	4	▲18.4%	3
	ガチフロ(自社販売) (合成抗菌剤)	23	25	25	23	7	▲72.1%	0
海外新医薬品	海外売上合計	88	86	58	43	38	▲13.4%	27
	ガチフロキサシン (バルク・ロイヤルティ含む)	80	67	32	30	25	▲16.9%	23
	ノルフロキサシン (バルク)	4	3	4	3	2	▲36.3%	0
	海外売上比率	13.3%	11.6%	7.5%	5.4%	4.1%	—	2.8%
ヘルスケア	ミルトン (哺乳ビン・乳首消毒剤)	23	21	21	19	18	▲5.9%	20

(単位:億円)

開発品一覧①(09年5月13日現在)

Ph II ~ 申請中

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
承認 (08年12月)		ペンタサ錠250 錠500	潰瘍性大腸炎・ クローン病 治療剤	フェリング 社	潰瘍性大腸炎活動期に対する新たな緩解導入療法 (1日4,000mgを2回に分けて投与)	用法・用量の追加
	(ガルドマ社 発売中)	塩酸アモロフィン ネイルラッカー	爪白癬治療剤	自社	日本初のネイルラッカー製剤	
	Ph II (04年10月)	KRP-204 (錠)	抗肥満剤	日清製粉	選択性の高いβ3受容体作動薬 従来のβ3作動薬に比べて心への影響が少なく、 肥満を改善することが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (07年3月)		KRP-204 (錠)	過活動膀胱 治療剤	日清製粉	β3受容体作動薬 膀胱におけるβ3受容体の活性化により膀胱を弛緩 させ蓄尿機能を高めることが期待される	日清製粉グループ本社 日清ファルマと共同開発 ・Ph II a終了
Ph II (05年3月)	(エーザイ Ph III)	AS-3201 (錠)	糖尿病合併症 治療剤	大日本 住友製薬	アルドース還元酵素を強力に阻害することにより細胞 内のソルビトール蓄積を抑制し、糖尿病性神経障害を 改善する	・大日本住友製薬と 共同開発(国内のみ) ・Ph II b(07年9月)開始
	Ph II (04年6月)	KRP-101 (錠)	脂質代謝改善/ 糖尿病治療剤	自社	PPARαアゴニスト。中性脂肪等脂質代謝改善作用に 加えて、糖尿病に対する有効性が期待される	Ph II a終了
Ph II (08年2月)	Ph II (07年9月)	KRP-104	糖尿病治療剤	自社	DPPIV阻害剤。インスリン分泌ホルモンの分解を抑え ることにより血糖低下作用を示す。副作用の発現が 少ない糖尿病治療が期待される	・海外Ph II a終了 (08年8月) ※国内Ph II b開始 (09年3月)
Ph II (08年8月)	(米国:アボット 申請中 欧州他: ムンディファーマ Ph III)	KRP-108	気管支喘息治 療剤	スカイ ファーマ社	ステロイド及び長時間作動型β作動薬の配合剤で利便 性やコンプライアンスに優れる	スカイファーマ社と ライセンス契約(08年4月)

開発品一覧②(09年5月13日現在)

POCプロジェクト(前臨床~Ph I)

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

開発段階		製品名・ 開発コード	薬効	起源	特徴	備考
国内	海外					
	Ph I (07年7月)	KRP-203	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P受容体アゴニスト。新規メカニズムを有する免疫調整剤。既存の免疫抑制剤に比べて安全性が高く、かつ優れた併用効果が期待される	ノバルティス社と ライセンス契約(06年2月)
	Ph I (07年10月)	KRP-105	脂質代謝改善	自社	選択性の高いPPAR α アゴニスト。KRP-101よりもさらにPPAR α 受容体に対して選択性が高い。脂質改善作用に加え、アディポネクチンの増加、レプチンの減少、体重増加抑制作用などが動物実験で確認されており、新たな脂質改善剤として期待される	
前臨床		KRP-107	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	S1P1受容体選択的アゴニスト。	
※前臨床		KRP-109	急性肺障害	自社	肺移行性の高い好中球エラスターゼ阻害剤。	

開発品一覧③(09年5月13日現在)

導出品の状況

※: 前回(09年3月期第3四半期)からの変更点を示す

製品名・ 開発コード	導出先・ 共同研究先	開発段階	薬効	起源	備考
アルファガン/ アルファガンP	千寿製薬	国内PhⅢ (07年7月)	緑内障治療薬	米国 アラガン社	・アラガン社より導入 (ガチフロキサシン点眼液のクロスライセンス) ・千寿製薬に導出(04年5月)
ケタス	米国 メディシノバ社	海外PhⅡ (05年8月)	脳血管障害治療薬	自社	・多発性硬化症の適応での日本、中国、 韓国、台湾を除く全世界における独占的 な開発、製造販売権を供与(04年10月) 08年4月 PhⅡの結果を公表
KCA-757	米国 メディシノバ社	海外PhⅢ (気管支喘息: 06年11月) 海外PhⅡ/Ⅲ (間質性膀胱炎: 05年5月)	気管支喘息治療薬 間質性膀胱炎治療薬	自社	・日本、中国、韓国、台湾を除く全世界に おける独占的な開発、販売権を供与 ・間質性膀胱炎:07年1月に結果を公表、 開発を中断 ・気管支喘息:海外PhⅢ一旦停止
KRP-203	スイス ノバルティス社	海外PhⅠ (07年7月)	自己免疫疾患、 臓器移植	自社	・移植用の免疫調整剤として、全世界の開発及び 販売権、自己免疫疾患及びその他の疾患用剤と して、日本、中国、韓国、台湾を除く全世界の 開発及び販売権(なお、炎症性腸疾患用剤と しては、全世界の権利を留保している)を供与 (06年2月)

主な業績項目の推移: 連結

	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期(予想)	(単位: 百万円)
売上高 (輸出高)	66,296 (8,838)	74,054 (8,575)	77,093 (5,762)	81,070 (4,367)	90,889 (3,830)	96,400 (2,700)	
売上原価 (売上原価率)%	22,682 (34.2%)	26,515 (35.8%)	30,620 (39.7%)	31,757 (39.2%)	36,791 (40.5%)	—	
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	37,747 (57.0%)	38,549 (52.1%)	38,059 (49.4%)	43,061 (53.1%)	45,146 (49.7%)	—	
うち研究開発費 (研究開発费率)%	12,698 (19.2%)	10,107 (13.6%)	8,609 (11.2%)	10,826 (13.4%)	10,531 (11.6%)	11,600 (12.0%)	
営業利益 (営業利益率)%	5,866 (8.8%)	8,989 (12.1%)	8,413 (10.9%)	6,251 (7.7%)	8,952 (9.8%)	11,500 (11.9%)	
経常利益 (経常利益率)%	6,430 (9.7%)	9,465 (12.8%)	8,655 (11.2%)	6,643 (8.2%)	9,208 (10.1%)	12,300 (12.8%)	
当期純利益 (当期純利益率)%	2,013 (3.1%)	5,228 (7.1%)	4,842 (6.3%)	2,189 (2.7%)	2,037 (2.2%)	7,300 (7.6%)	
一株当たり当期利益(円)	26.48円	69.74円	64.97円	29.26円	27.24円	97.64円	
資本金	4,317	4,317	700	700	700		
総資産	109,234	121,044	124,039	122,398	124,552		
株主資本	90,544	94,752	96,922	96,401	97,513		
純資産	—	—	98,178	97,184	96,501		
一株当たり純資産(円)	1,218.22円	1,275.15円	1,311.17円	1,298.89円	1,290.67円		
自己資本利益率%	2.2%	5.6%	5.0%	2.2%	2.1%		
自己資本比率%	82.9%	78.3%	79.2%	79.4%	77.5%		
人員(人)	1,703人	1,823人	1,932人	2,003人	2,247人		
設備投資	6,172	4,605	2,954	1,952	1,612	2,600	
減価償却費	3,894	3,646	4,544	4,536	3,799	3,000	

* 06年3月期業績までは杏林製薬(株)の連結数値、07年3月期以降の業績及び09年3月期予想は(株)キョーリンの連結数値を示す

損益計算書の概要：杏林製薬単体①

(単位：百万円)

	08年3月期		09年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	70,480	100.0%	77,962	100.0%	10.6%	7,482
新医薬品	67,452	95.7%	75,083	96.3%	11.3%	7,631
国内	63,296	89.8%	71,935	92.3%	13.6%	8,638
海外	4,155	5.9%	3,148	4.0%	▲24.2%	▲1,007
後発医薬品	271	0.4%	251	0.3%	▲7.4%	▲20
ヘルスケア	2,756	3.9%	2,627	3.4%	▲4.7%	▲129

<当期のポイント>

対前年

■ 売上高 77,962百万円 (+7,482百万円)

● 国内新医薬品 71,935百万円 (+8,638百万円)

08.3実績 09.3実績 (億円)

・キプレス 191 → 252 (+61)

・ムコダイン 212 → 206 (▲6)

・ペンタサ 88 → 157 (+69)

・ウリトス 7 → 20 (+13)

・ガチフロ 23 → 7 (▲16)

* 一時金収入の減少

● 海外新医薬品 3,148百万円 (▲1,007百万円)

・ガチフロキサシン 30 → 25 (▲5)

* ザイマー \$100MM⇒\$101MM ロイヤルティ収入の減少
(為替変動の影響等)

● 後発医薬品 251百万円 (▲20百万円)

● ヘルスケア 2,627百万円 (▲129百万円)

・ミルトン 19 → 18 (▲1)

損益計算書の概要：杏林製薬単体－②

(単位：百万円)

	08年3月期		09年3月期			
	実績	売上比	実績	売上比	前同比	前年増減額
売上高	70,480	100.0%	77,962	100.0%	10.6%	7,482
売上原価	25,217	35.8%	29,551	37.9%	17.2%	4,333
売上総利益	45,262	64.2%	48,411	62.1%	7.0%	3,148
販売費及び一般管理費 (うち研究費)	38,319 (9,959)	54.4% 14.1%	39,894 (10,056)	51.2% 12.9%	4.1% (1.0%)	1,574 (96)
営業利益	6,942	9.8%	8,517	10.9%	22.7%	1,574
営業外収益	676	1.0%	998	1.3%	47.6%	322
営業外費用	289	0.4%	52	0.1%	▲81.9%	▲237
経常利益	7,328	10.4%	9,463	12.1%	29.1%	2,134
特別利益	15	0.0%	176	0.2%	1036.8%	161
特別損失	530	0.7%	2,823	3.6%	431.9%	2,292
税引前当期純利益	6,813	9.7%	6,816	8.7%	0.0%	2
法人税・住民税 及び事業税	1,980	2.8%	2,617	3.3%	32.1%	636
法人税等調整額	1,056	1.5%	157	0.2%	▲85.1%	▲899
当期純利益	3,776	5.4%	4,041	5.2%	7.0%	265

<当期のポイント>

対前年

◆原価率：前年比2.1ポイント上昇 (35.8%⇒37.9%)
上昇要因：薬価改定(杏林製薬約4%)の影響、一時金収入の減少
低下要因：製品販売構成の変化

◆研究開発費率：前年比1.2ポイント低下
* 100億円⇒101億円(約1億円増加) (14.1%⇒12.9%)

◆販管費率(除R&D費)：前年比1.9ポイント低下
(40.2%⇒38.3%)
* 284億円⇒298億円(約14億円増加)
日清キョーリン製薬の統合等

■営業利益 85億円

◆営業利益率は10.9%と1.1ポイント上昇

■当期純利益 40億円

貸借対照表の概要：杏林製薬単体

(単位:百万円)

	08年3月期		09年3月期		
	実績	構成比	実績	構成比	前期末増減
流動資産	57,044	54.4%	64,822	59.7%	7,778
現金および預金	7,755		8,615		
売掛金	25,895		32,018		
有価証券	2,007		3,437		
棚卸資産	17,156		15,684		
その他流動資産	4,229		5,066		
固定資産	47,866	45.6%	43,699	40.3%	▲4,166
有形固定資産	14,771		13,789		
無形固定資産	1,450		486		
投資その他	31,644		29,423		
資産合計	104,910	100.0%	108,522	100.0%	3,611
流動負債	13,824	13.2%	14,593	13.5%	769
支払手形及び買掛金	7,968		5,423		
その他流動負債	5,855		9,170		
固定負債	4,293	4.1%	5,457	5.0%	1,163
負債合計	18,118	17.3%	20,051	18.5%	1,933
株主資本	86,140	82.1%	89,328	82.3%	3,187
評価・換算差額等	651	0.6%	▲857	▲0.8%	▲1,509
純資産合計	86,792	82.7%	88,470	81.5%	1,678
負債及び純資産合計	104,910	100.0%	108,522	100.0%	3,611

<当期のポイント>

■ 流動資産： 7,778百万円増

- ・現金及び預金の増加 (859百万円増)
- ・売掛金の増加 (6,123百万円増)
- ・棚卸資産の減少 (1,472百万円減)

■ 固定資産： 4,166百万円減

- ・有形固定資産の減少 (981百万円減)
- ・無形固定資産の減少 (964百万円減)
- ・投資その他の減少 (2,220百万円減)

■ 流動負債： 769百万円増

- ・支払手形及び買掛金の減少 (2,545百万円減)
- ・その他流動負債の増加 (3,314百万円増)

■ 固定負債： 1,163百万円増

主な業績項目の推移: 杏林製薬単体

(単位: 百万円)

	05年3月期	06年3月期	07年3月期	08年3月期	09年3月期	10年3月期 (予想)
売上高 (輸出高)	64,938 (8,838)	67,357 (8,331)	66,052 (5,521)	70,480 (4,155)	77,962 (3,148)	81,700 (2,600)
売上原価 (売上原価率)%	21,653 (33.3%)	21,821 (32.4%)	23,815 (36.1%)	25,217 (35.8%)	29,551 (37.9%)	—
販売費及び一般管理費 (販管费率)%	37,373 (57.6%)	36,762 (54.6%)	34,623 (52.4%)	38,319 (54.4%)	39,894 (51.2%)	—
うち研究開発費 (研究開発费率)%	12,698 (19.6%)	10,013 (14.9%)	8,216 (12.4%)	9,959 (14.1%)	10,056 (12.9%)	10,800 (13.2%)
営業利益 (営業利益率)%	5,911 (9.1%)	8,773 (13.0%)	7,613 (11.5%)	6,942 (9.8%)	8,517 (10.9%)	11,400 (14.0%)
経常利益 (経常利益率)%	5,723 (8.8%)	8,377 (12.4%)	7,615 (11.5%)	7,328 (10.4%)	9,463 (12.1%)	12,500 (15.3%)
当期純利益 (当期純利益率)%	1,615 (2.5%)	4,771 (7.0%)	4,697 (7.1%)	3,776 (5.4%)	4,041 (5.2%)	7,700 (9.4%)
一株当たり当期利益(円)	21.19円	63.64円	63.25円	50.85円	54.42円	
資本金	4,317	4,317	4,317	4,317	4,317	
総資産	106,264	111,978	106,042	104,910	108,522	
株主資本	88,839	92,525	85,706	86,140	89,328	
純資産	—	—	86,797	86,792	88,470	
一株当たり純資産(円)	1,195.26円	1,245.22円	1,168.71円	1,168.63円	1,191.24円	
自己資本利益率%	1.8%	5.3%	5.2%	4.4%	4.6%	
自己資本比率%	83.6%	82.6%	81.9%	82.7%	81.5%	
人員(人)	1,619人	1,502人	1,488人	1,517人	1,716人	
設備投資	6,171	4,455	1,322	1,350	969	2,300
減価償却費	3,883	3,307	3,997	3,844	3,042	2,300